



## vol.② 山梨学院大学

# 県産果物の魅力を発信！ 都市と農村を結ぶフルーツ大使

山梨学院大学健康栄養学部 学生約100名が、フルーツ大使として山梨県特産のフルーツの生産・消費を拡大すべく活動しています。管理栄養士を目指す学生としての視点と若い行動力を生かして、都市と農村との交流を促進し、地域の活性化を目指しています。



### フレッシュな感性が生み出す 新しい提案

県内唯一の管理栄養士養成施設として健康の保持増進と食育の推進に貢献できる人材を育成している山梨学院大学健康栄養学部。ここで管理栄養士を目指す学生有志が、地域の農業法人や若手農業者などからなる八代地区都市農村交流推進協議会の委嘱を受け『フルーツ大使』として活躍しています。

フルーツ大使となった学生は、県内で生産されているフルーツの品種を名字と名前の間にミドルネームとして加えた、PR用の名刺を作成。フルーツの生産や農業の現状についての研修を重ね、実際に生産者の指導を受けて農作業を体験します。そして都内



### 後継者不足という 問題の解決を目指して

農家の後継者不足は収入が不安定なことも原因の一つだと知りました。機能的成分の解析や、加工品の開発などフルーツのさまざまな活用法を見出すことが収入の向上につながるのではないかと考え、活動を頑張っています。

小田切・貴陽・香さん



### 大使としての経験を 将来に生かしたい

私は栄養教諭を目指しています。将来は地元産のフルーツを給食に取り入れたい。また、フルーツ大使の経験を生かして、食育の中で子どもたちにフルーツの大切さや、食べ物に対する感謝の気持ちを教えたいです。

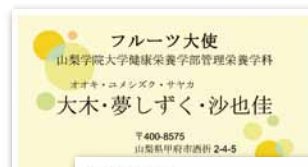
篠原・サマーエンジェル・理夢亜さん



### フルーツの消費拡大に 貢献したい

管理栄養士を目指す者として、フルーツ摂取の重要性を発信し、消費拡大に貢献したいと思いフルーツ大使になりました。現地の研修では、座学だけでは分からない事にも気付くことができ、とても勉強になりました。

渡辺・サニールージュ・沙椰香さん



フルーツ大使の名刺。裏面はミドルネームとしたフルーツの説明



笛吹市の八代地区で農作業を体験  
「これが店頭と並んで売られると思うと、作業も緊張します」



東京都墨田区のマルシェ「ひきふね青空市ヤッチャバ」で販売を手伝い、山梨のフルーツをPR



**これからの農業を見据え  
若い力と発想力に期待します。**

八代地区都市農村交流推進協議会  
会長 風間 博文さん

私たちは地域農業の未来を見据えて活動に取り組んでいます。フルーツ大使の皆さんの役割は大きく、都市農村交流を通じての、八代の果物の良さのPRや地域活性化など、若い力と発想に大いに期待しています。都内のマルシェでの販売や、農園での作業も、とても楽しそうにやってくれます。熱意と活気があって本当にいいですね。

**【問い合わせ先】**  
山梨学院大学 BPセンター広報課  
TEL 055-224-1640 FAX 055-224-1498

山梨学院大 健康栄養学部

検索



収穫期以外にもフルーツを活用できるよう、ジャムやビン詰めを利用したレシピの開発に取り組んでいる

に出向きマルシェで販売を手伝い消費者と交流したり、都内から農村体験に来た子どもたちの農作業を手伝ったりする中で、都市と農村の交流を深め山梨のフルーツの魅力を発信しています。また、フェイスブックを利用したインターネットでの継続的な情報発信や、フルーツの加工品レシピの開発と協議会への提案にも取り組んでいます。

管理栄養士を目指す学生の視点と若い発想から生まれる提案が、八代地区から全国に広がり、農業の未来を開いていくことを期待させてくれます。フルーツ大使たちの熱意ある取り組みが、農業の後継者不足や、消費者のフルーツ離れに歯止めを掛ける原動力になろうとしています。



**機能性成分の研究など  
さらなる取り組みを**

フルーツの消費拡大には価値の向上が重要。日本が世界に先駆けて行っている機能性成分の研究をさらに進めたり、県でも大学などと連携し研究に取り組んでほしい。科学的根拠に基づいた情報を発信し、健康増進、生活向上のため僕たちも努力したいと思います。  
望月・サマービュート・葵さん



**農家の皆さんの「本気」を伝えたい**

フルーツ大使として、テレビ出演、農作業体験、都内でのPRなどを行ってきました。山梨フルーツのファンがたくさんいることを知ったことで、一生懸命に品質の良いフルーツを育ててきた農家の皆さんの努力に気が付き、それを伝えていきたいと思いました。  
池上・サニールージュ・愛美さん